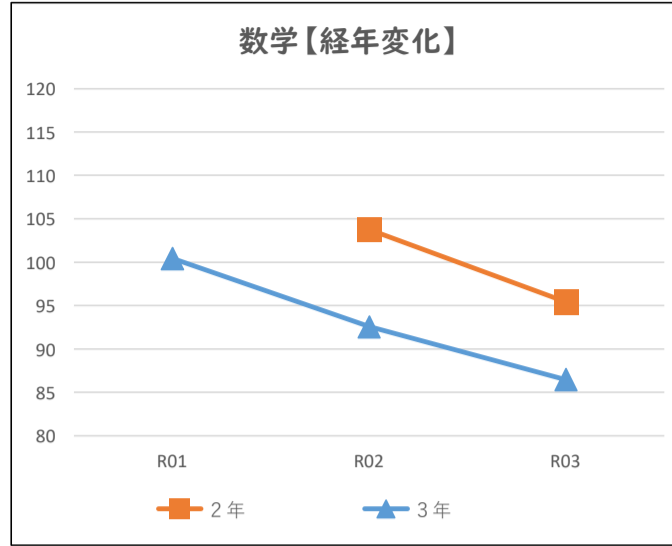
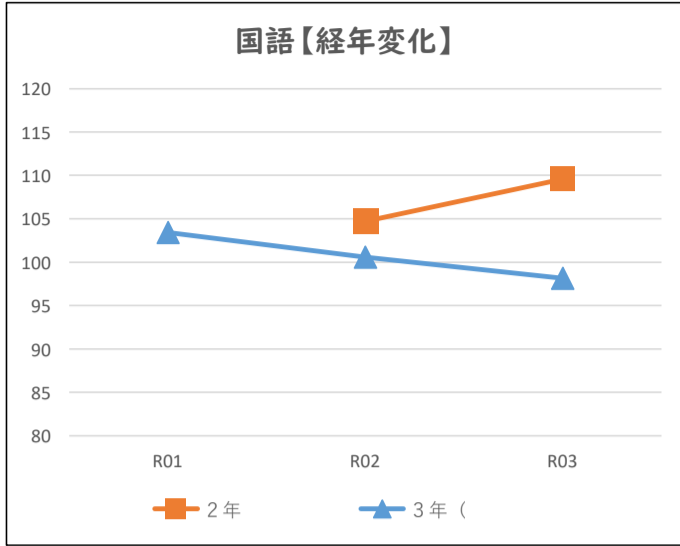


I 令和3年度末までの学力の状況把握(令和3年度 釧路市標準学力検査より)
各学年の経年変化(目標値を100とした時の各学年の状況)



※釧路市標準学力検査結果の経年変化や到達度の割合から見られる各学年の特徴・成果・課題等

- 1年生【新2年生】の国語では、目標値を大きく上回っている。評定の割合は、下位層の割合が少ない。
- 1年生【新2年生】の数学では、目標値を大きく下回った。評定では4の割合が低く、1の割合が多くなっている。
- 2年生【新3年生】の国語では、目標値を下回った。評定の割合では4の割合が低くなっている。
- 2年生【新3年生】の数学では、目標値を大きく下回った。評定5、4が少なく、2が51.7%もいる。

II 各学年における成果と課題、令和4年度の実践 (○:成果 △:課題 ◇:継続する取組 □:新規の取組 ◎:改善する取組)

		今後の取組について	
1年生	国語	1年生の国語では、小学校での既習を生かすとともに日常的に漢字練習や宿題の発出により基礎基本の定着を図る。	
	数学	1年生の数学では、小学校での既習を生かしながら、少人数指導を通して、基礎基本の定着を図るとともに、計算ドリルなどを反復・継続的に取り組んでいく。	
2年生	国語	成果と課題について ○1年成果 ・漢字の読むことや漢字を書くことについては、小テストの継続的な実施が成果となって現れている。 ・話し合いの内容を聞き取るについては、話し合いのポイントを意識させた交流場面の設定が成果となって現れている。 △1年課題 ・話の内容を聞き取ることや自分の考えや根拠を明確にして記述することは目標値には達しているが、全国平均よりは低かった。	今後の取組について ◇2年国語継続 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。 以下に示す学習過程の実践。 ①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。 ②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。 ③「見通し」と「振り返り」を位置づける。 ・漢字の小テスト ・ICT機器の活用・WEBシステム教科用フォローアップ問題の実施 □2年国語新規 ・理由や根拠を明確にして記述させる。 ◎1年国語改善 ・意味調べなど語彙力を高める取組
	数学	○1年数学成果 ・正の数・負の数、1次方程式、比例・反比例については目標値とほぼ同値である。 △1年数学課題 ・文字式を使って、数学的に説明することに課題がある。	◇2年数学継続 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。 以下に示す学習過程の実践。 ①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。 ②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。 ③「見通し」と「振り返り」を位置づける。 ・ICT機器の活用・WEBシステム教科用フォローアップ問題の実施 □2年数学新規 ・基本的な計算や1次方程式などのドリルに反復・継続的に取り組む ◎2年数学改善 家庭学習の励行につながるような課題提示を意図的に仕掛けることで、家庭学習の習慣化を図る。
3年生	国語	○2年国語成果 ・漢字の読むことや漢字を書くことについては、小テストの継続的な実施が成果となって現れている。 △2年国語課題 ・文法・語句に関する事項について、文の成分や行書の特徴、歴史的仮名遣いなどの言葉や言語についての理解に課題がある。 ・文章を書くことについては、自分の考えや指定された条件で書くことについて課題がある。	◇3年国語継続 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。 以下に示す学習過程の実践。 ①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。 ②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。 ③「見通し」と「振り返り」を位置づける。 ・漢字の小テスト・条件作文 ・ICT機器の活用・WEBシステム教科用フォローアップ問題の実施 □3年国語新規 ・文の成分や歴史的仮名遣いなどの言葉や言語についての定着を図る。 ◎3年国語改善 ・ICT機器の活用・WEBシステム教科用フォローアップ問題の実施
	数学	○2年数学成果 ・証明については目標値とほぼ同値である。 △2年数学課題 ・中2で学習した式の計算については定着に課題がある。 ・1次関数では、条件に合った関数を求めることに課題がある。 ・連立方程式では、解く過程の解釈や数学的に説明することに課題が見られた。	◇3年数学継続 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。 以下に示す学習過程の実践。 ①生徒が課題解決のために思考・判断・表現することを促す課題を提示する。 ②生徒が個人思考した結果を表現し合い、学びを深める時間を保障する。 ③「見通し」と「振り返り」を位置づける。 □3年数学新規 ・計算ドリルを反復・継続的に取り組み、計算力の定着を図る。 ・1次関数、連立方程式の問題に反復・継続的に取り組む。 ◎3年数学改善 ・ICT機器の活用・WEBシステム教科用フォローアップ問題の実施 ・家庭学習の励行につながるような課題提示を意図的に仕掛けることで、家庭学習の習慣化を図る。

Ⅲ 学校全体における成果と課題、今後の取り組みについて

① 成果と課題について

(授業づくり・環境づくり・習慣づくり) ○:成果 △:課題

授業 づくり	<p>○「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善を目指し、「課題提示」「まとめ」「振り返り」等に取り組み、授業づくりの充実を図ることができた。</p> <p>○授業評価では、「課題提示」「自ら考える」について高い評価を得た。</p> <p>△教師間のタブレットの活用方法に差がある。</p> <p>△家庭学習をあまりしない、全くしない生徒への指導に課題がある。</p>
環境 づくり	<p>○放課後学習では、授業の復習やタブレットを活用し、自分で学習を進める生徒が増えてきた。</p> <p>○学習委員会が主体となってテスト前ドリルを作成している。</p> <p>△コロナ対応時程で、朝学習の時間が確保できなかった。</p>
習慣 づくり	<p>○テスト前の放課後学習により、テスト勉強への取り組みが定着した。</p> <p>△ゲーム・スマホの使用時間の長さや使用時間帯に課題が見られた。</p> <p>△家庭学習への取組に個人差が出ており、学力差にもつながっている。</p>

② 改善の方向性について

(◇:継続する取組, □:新規の取組, ◎改善する取組 等)

<p>◇次年度は・・・</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。</p> <p>①生徒が解決に向けて思考・判断・表現することを促す課題の提示。</p> <p>②生徒が個人思考した結果を表現しあう時間の保障。</p> <p>③単元における「見通し」と「振り返り」の位置づけ。</p> <p>□ICT機器の活用を図り、生徒が課題解決に向けて思考・判断・表現する場の設定を充実させる。</p> <p>◎校内研修においては、学力向上に向けた課題を共有し、授業づくりを推進する。</p> <p>◎数学では、低位層を対象に授業とつながる宿題を毎時間発出する。</p>
<p>◇定期テスト前後の放課後学習</p> <p>◇放課後学習の場所を日常的に開放し、学習の場を設ける。</p> <p>□ICTの効果的な活用ができるよう、研修部とICT活用・推進委員会が連携し、スキルアップのための校内研修を実施する。</p> <p>◎テスト前に朝学習の時間を設定し、学習へ向かう習慣を身につけさせる。</p> <p>◎プリント棚の継続</p>
<p>□放課後学習の実施。</p> <p>□テスト前2週間は朝学習期間に設定したり、家庭学習の充実を図る。(パワーアップ週間の設定)</p> <p>□家庭学習ノートを掲示したり、放課後学習への参加を積極的に促し、学習内容の定着を図る。</p> <p>□学習後時間をおき、「忘れた内容」を意図的に課題として出す。</p> <p>◎健康チェックから指導を要する生徒の保護者への相談を実施する。</p> <p>◎数学では、低位層を対象に授業とつながる宿題を毎時間発出する。</p>